

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		事業所における自己評価結果				公表日	2025年10月1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	集団支援や意味のある支援をたくさんできたらと思います。 人員配置やお子さまの特性など考慮した上で利用人数配置を行っている。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	基準人員等配慮しながら、配置している。		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	事業所内のバリアフリー化、支援室の構造化などは出来ている。 特性に合わせ、教室全体の過度な装飾はあえて行っていない。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	2	お子様の状況に合わせ空調の設定など細目を行っている。 毎日、玩具などアルコール消毒の徹底と清掃を行っている。	劣化箇所の確認と、早急な修繕工事を引き続き実施していきます。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	空き部屋にて対応が出来る様にしている。 性格・特性・支援内容によって場所を使用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	0	職員会議や1週間に1度の意見交換会、お子様のケース会議、イベント後の振り返りなどを実施している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	評価後に全職員で評価を共有し、改善案や対策について話し合うなど、今後の運営に役立てている。 よりよい教室にするために、スピード感を持って改善している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	定期的に教室長との面談があり、意見が言えるよう配慮されている。 出た意見は他職員にも確認した上で反映出来る所は行っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	2	外部評価はないが毎年、内部監査の結果を元に、業務改善について会議が行われている。	外部評価は行われていないが、内部監査での意見や職員から出た意見を元に引き続き改善に繋げていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	法人内の研修や専門職による勉強会、外部の研修への積極的参加等を行っている。 専門職同士の研修もあるため、充実していると思われる。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	HPに公表。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	0	作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	行われている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	適宜職員会議が行われている。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	会社独自のツールにてアセスメントを行うことに加え、日々の変化などは記録に残している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	設定されている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	1	個別支援の際には担当による共有や前回入った支援員からの引き継ぎを行い、集団の際には支援に参加するスタッフでの検討を行っている。	当日支援のプログラム案等は個々で行っているが前回の記録の確認や個別支援計画に沿った支援を行っていく事を引き続き職員へ周知していく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	色々な支援員が入るため、前回の記録だけでなく、キーワード検索しながら、同じ活動で偏るなどしていないか、確認しながら進めている。		
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	行われている。		

関係機関や保護者との連携	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	1	支援内容については個別では打合せができていないことがある。集団支援では打合せができている。前回からの引き継ぎ等は出来ている部分が多い。	個別支援も多いため、直接の打合せはすべては行っていないが、記録の確認や気になった際には前回の支援員やその場にいる支援と内容の確認を行う事を引き続き全職員に周知していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	終盤にて共有している。漏れがない様に休みのスタッフについても業務日誌を見てもらうように徹底している。	毎回の直接の打合せは難しい為、職員会議やケース会議、朝終礼等で話し合いを行っていく事を引き続き徹底していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	記録を残し、確認できるようにしている。支援前に同じ支援教材を使用した職員にどのような様子であったか等を確認出来ている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	家族支援や3ヶ月の中間評価の時期に保護者への確認や最近の様子の聞き取りなどを行っている。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	担当又は児発管が参加している。定期的に連絡を取り合っているため、充実した状態になっている。利用時のFB時、都度の面談時にも確認を行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	連携は積極的に行っている。利用者様に関わっている関係機関や地域への連携を行う事が出来ている。全ては網羅していないが、地域連携として各関係機関と連携を図っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	連携、移行に向けた情報共有などを行っている。他事業所の紹介や空き状況の確認、移行の際には幼稚園や学校とも話し合いの場を設け共通認識を図っている。	支援内容等の情報共有と相互理解を図ることが今後の課題とする。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	1	就学引継ぎシートの希望があった利用者様へは確実に就学先への移行、引継ぎを行っている。就学後にはケース会議を行っているため、就学後までの情報共有もしっかりとなされている。	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	2	関係性が取れている医療機関からの助言や検査への同行などは機会を設けて行っている。センター主催の勉強会に参加している。療育センターの検査に同行して第三者共通で支援が行えることを目的に情報共有を図っている。	今後は、療育センターとの情報共有の場を更に増やしていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	4	通っている子どもがほとんど保育所や幼稚園、小学校に通っているため積極的には行えていない。兄弟が来た際には一緒に活動出来る場を設けることが出来ている。	地域の遊び場への参加を行ったが、他の子どもとの交流は今後検討していく。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	FBや家族支援、子育てサポートにて適宜、傾聴・助言が行われている。毎支援時のFBで共有を行っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレン特・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0	家族支援を行う時間を設けている。オンライン講座の活用や、保護者向けの講座やイベントを企画、専門的視点から見た情報提供や助言を行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	見学・体験・契約時に伝えている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	モニタリング、アセスメント時の聞き取りを時間を設けて行っている、説明を行い、同意を得たうえでサインを頂いている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0	説明を行い、同意を得たうえでサインを頂いている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	内容に応じて別室での対応を行っている。その場でのお答えが難しい際にも職員に共有し次回以降助言を行う事を徹底している。	

保護者への説明等	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	2	就学イベント等で家族支援Ⅱを実施し、保護者の交流する機会は増えている。 イベントへの兄弟児のお誂いや、OB会、保護者向け講座にて座談会を設定し、コミュニティを広げるお手伝いを行っている。	ニーズのあった保護者様同士の意見交換会や交流の場を増やしていく。
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	早急に対応することが出来ている。	
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	毎月のハビーだよりや、(連絡アプリ)コノベル掲示板、ブログなどで情報発信を行っている。	
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	鍵付きキャビネットにて管理している。	
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	相談のやり取りをWBに書いたり、筆談、イベントチラシ、絵カード、パワポなどのツールを用いて、視覚的に分かりやすく情報が伝わるよう配慮している。	
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4	地域連携や、ハビー卒業生のOB会等を実施している。 公園にて遊ぶことの出来るイベントの際には利用者ではないが関わりのある地域の保護者やお子様も招待している。(お花見等)	ふれあいリーム等遊び場への行事にこちらが派遣として出向いて地域住民との交流の場を広げていく。
非常時等の対応	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1	防災イベントとして、お子様や保護者様に周知している。	
	46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	水難事故や災害について学ぶイベントを行っている。消防訓練においては、職員のみ行っている。	
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	アレルギー情報シートや契約前の情報シートにて確認している。	
	48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	3	イベント等でお菓子を配る際にはアレルギー同意書の確認と保護者様への再三の直接確認を行っている。	毎日の食事提供は行っていない。
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	出来ている。	
	50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	災害情報シートの記入を行っている。	
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハットが起きた日の終礼時に必ず共有し、対策について意見交換が行われている。	
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	社内研修にて対応している。	
	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	0	契約時に説明を行っている。	